

■7/6 日本パスツール財団設立記念講演会「グローバルヘルスのための国際連携」■

御礼とご報告

日本パスツール財団は、7月6日（木）、六本木の国際文化会館にて、設立1周年記念講演会「グローバルヘルスのための国際連携」を開催いたしました。内容は、第一部 講演、第二部 パネル・ディスカッション、第三部 懇親会の三部構成となっています。以下に各部の概要をご報告します。

【第一部】 講演の部

初めに、日本パスツール財団の渡辺昌俊代表理事よりご挨拶の後、2人の講師をご紹介しました。まず基調講演として、パスツール研究所所長のクリスチャン・ブレショ教授が演壇に立ち、「グローバルヘルスの新しいパラダイムとパスツール研究所の役割」と題して、世界26か国33箇所のパスツール研究所国際ネットワークを通じて、国境を越えて広がる感染症に立ち向かう同研究所の取組を紹介するとともに、東大医科学研究所や京大医学部をはじめとする日本の研究機関との共同研究など国際連携の重要性について報告しました。

続く特別講演には、京都大学高等研究院の本庶佑特別教授が演壇に立ち、「獲得免疫の驚くべき幸運」と題して、PD-1阻害によるがん治療の成功によって、感染症に向けての武器であった免疫力ががんに対しても防御力となる仕組みについて、高度な内容を平易にわかりやすく説明されました。人類の病との戦いの中で、前世紀は感染症、今世紀はがんが最大のものと言われてきましたが、この2つの疾患を人類が克服できる基本原理を獲得免疫が担ったのは、驚くべき幸運ですとの力強い言葉で締めくくられました。

【第二部】 パネル・ディスカッションの部

休憩をはさんでパネル・ディスカッションに移り、京都大学医学研究科附属ゲノム医学センター長の松田文彦教授がモデレーター役を務め、「国際連携が可能にした医科学技術の発展事例」のテーマで、4人の専門家をパネラーとして討議を開始しました。パネラーには、前述のブレショ所長と本庶教授に加えて、東京大学医科学研究所所長の村上善則教授と、パスツール研究所感染症機能遺伝学ユニット長のアナヴァジ・サクンタバイ博士を迎え、それぞれの国際連携に基づく研究の成果や課題について披露していただきました。各パネラーとともに、国際連携とファンド・レイジングの重要性や、長期的視点に立った取組の大切さについて力説しておられました。

【第三部】 懇親会の部

討論の後は、緑豊かな庭園を一望にできるサロンに会場を移し、懇親会を開催しました。乾杯の音頭は、翌7/7（金）にパスツール研究所との研究協力合意書（MoU）調印式を控えた国立国際医療研究センター（NCGM）熱帯医学・マラリア研究部長の狩野繁之博士に取っていただきました。参加された約80名の方々は、ブレショ所長や本庶教授をはじめとする講師の方々と名刺交換をされたり、会場内で出会った知人・友人同士で情報交換をされたりと、活発に歓談しておられました。

このたびの講演会・懇親会にあたりましては、下記の法人・団体のご支援・ご協力を賜りました。ここに記して御礼申し上げます。

後援： パスツール研究所、在日フランス大使館、東京大学医科学研究所、京都大学医学研究科、国立国際医療研究センター

助成： 一般社団法人東京倶楽部

協力： 公益財団法人国際文化会館

協賛： シスメックス株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社 明治（講演会場のドリンクもご提供いただきました。感謝申し上げます）

当日撮影しました写真を以下に掲載します。

また、在日フランス大使館様からは、科学技術参事官様や生命科学担当技術アタッシェの方にもご参加いただきました。既に、大使館様のサイトに記事が掲載されていますので、こちらにもリンクを転載させていただきます。

（日本語）

<https://jp.ambafrance.org/article11838>

（フランス語）

<https://jp.ambafrance.org/Renforcement-de-la-cooperation-de-l-Institut-Pasteur-avec-le-Japon>







